

## 三条市教育制度等検討委員会最終報告 地域説明会記録（第三中学校区）

- 1 日 時 平成20年5月26日（月） 午後7時～午後8時40分
- 2 会 場 中央公民館 大ホール
- 3 参加者数 35人
- 4 報道機関 ケンオー・ドットコム 越後ジャーナル
- 5 教育委員会出席者  
梨本教育委員長 松永教育長 古川教育部長 池浦教育総務課長 駒澤学校教育課長
- 6 説明会次第
  - (1) 開会あいさつ 梨本教育委員長
  - (2) 最終報告説明 駒澤学校教育課長
  - (3) 質疑、意見等
  - (4) 閉会あいさつ 松永教育長
- 7 質疑、意見などの概要

### 発言者 A

ハード・ソフト 1頁に「ハード・ソフト両面にわたって…」と述べているが、その場合のハード・ソフトについて分からなかったので教えてほしい。

### 教育総務課長

ハードというのは、学校の施設や整備を指し、ソフトは学校における学習活動などの充実を指している。

### 発言者 B

- ① 報告書の扱い 三条市としてこの制度で小中一貫教育を実施することに決まっているのか。
- ② モデル校の試行 モデル校が第一中学区と第三中学区だが、平成22年度からモデル校の試行をするのか。

### 教育総務課長

- ① 昨年1月から今年2月にかけて教育制度等検討委員会が、先進地を視察するなど、真摯に議論してつくり上げた最終報告書なので、この趣旨を考えれば、教育委員会、三条市としてもこの報告書を真剣に受け止めなければならない。小中一貫教育の方向性については、学校説明会、地域説明会での意見を伺い、それを尊重して教育委員会、三条市としての方向を定めていくことになる。
- ② モデル校に第一中学校区と第三中学校区が示されているが、提言されたスケジュールを尊重する中で、地域の皆さん、学校現場と話し合いながら方向を定めていきたいと思っている。

### 発言者 C

- ① 小中一貫教育の成果 学期制については継続してほしいとか、導入した市町村から成果が得られなかった等が述べてあるが、小中一貫教育について、それを行っている成果や議論された内容が全然伝わってこない。
- ② 4・3・2制の成果 2学期制についてはいろいろな説明があったが、4・3・2制については、どこを視察してどのような成果があがったとか、数値をグラフで比較するなど、何も示されていないが、どうなのか。次回からは、資料の提示をお願いしたい。

## 学校教育課長

- ① 三条市の学校現場では、先生方から学力の面においても生徒指導の面においても尽力をいただきそれなりの成果が上がっている。しかし、まだまだ不登校では 86 名の生徒がいる。学力の面でも中学校で伸び悩み現象などがあり、満足するような状況ではない。先進地視察で、一貫教育に取り組んでいる先生方の目の輝きが違うと感じた。先生方は、自分たちがこれまで取り組んできた一貫教育によって、子どもたちの学力が向上し、不登校数が減ってきていることを、自信を持って話された。今、文部科学省の中教審の答申は、小中連携教育が盛り込まれた内容になっている。少し後押しをいただいたような、国との方針とも共通する部分もある。
- ② 2 学期制については、授業時数増の確保や学びの連続性について、これから工夫することで解決できる。一貫教育の導入については、先進地の資料は示してないが、実際に不登校の数が減ってきているとか、学力面においても、視察は呉市と東京だが、私立志向が高い中で成績上位の子どもが私立へ流れた公立校で、残った子どもたちが学力を伸ばしていると聞いている。  
呉市の話だが、実施前の平成 14 年の調査で不登校が 20 人だったのが、導入後の 17 年度の調査では 11 人と約半数に減少している。同様に府中市でも減少している。

## 発言者 B

- ① **拙速で短絡的な結論** 持論を言わせてもらう。出産時、小学校入学、中学入学などいろんなギャップがある。そのギャップが逆に障がいかもしれないが、子どもの成長に大きな意義を持っているのではないか。いろいろな調査の報告・現状はよく分かったが、たった一つの小学校から中学校へいくところだけを捉えて、それをギャップとしてこういう制度を考えた。最終報告でやるということではなくて、もう 1 年くらい別のメンバーの 20~30 名で検討してもよかったのではないか。私は、大変拙速で短絡的な結論でなかったかとすごい疑問がある。
- ② **格差のない取組を** せっかく決めたのだからこれから実施すると思うが、一番心配なのは、何で同じ三条市の子どもが、一体型、連携型、併用型と、それをモデルの一中と三中を別に試さなければならないのか。もし、自信を持ってやるのなら、一つの形で三条市の子どもたちを同じ形で格差のない条件で教育に取り組んでいただきたい。
- ③ **情操面の充実も** 中学校の 5 教科は、進学に必要なだから複数制を用いている、確かに学力は大事だ。人間形成の中で 5 教科以外の学問も大事だ。「心の豊かさ」と書いてあるが、その面もソフト面で充実していただきたい。最近、音楽や絵画、そういうものにすすめていくのが中学校も高校でも見られなくなっている。その面に進学する子どもはいても、趣味として取り組む子が少なくなっているのので、情操面の充実も図っていただきたい。

## 教育部長

- ①② 小中一貫教育は、全国でも多様な取組がある。それぞれの地域がそれぞれの地域の意見をいただきながら取り組んでいる現状がある。これで間違いのないような決定版はない。このような形でやっていただきたいと示したのでは地域の実情にそぐわないことが考えられる。モデル事業はやっていただくが、最終的に三条市全体としてどのような姿になるかは必ずしも固定した考えは持っていない。もし、最終報告を受けて、地域と学校が話し合いをして、市全体で小中一貫に取り組んでいこうということになれば、それぞれの地域の形を、モデル校をモデルとして、話し合いのうえ進めていくことになる。
- ③ 様々な教科、特に音楽、体育や、子どもの情操も含めて総合的に検討すべきであるという意

見だが、教職員の意見を聴き、ソフトの部分として5教科に限らず様々な教科についても検討してもらおう。委員長の話にあったが、6年、3年に分けて教育を行うのを9年間トータルで、また、小中の組織も総合的に教員集団として捉え、音楽、芸術、スポーツ的なこと、特別支援的な取組についても、小中教員が連携して子どもを育成する取組を先進地域で見てきた。

### 教育長

- ① 子どもの成長にはギャップもあろうが意義もあるという話があったが、戦後の教育制度が始まった時期と現在では、子どもたちは身体的にも心理的にも成長速度が早まり、60年前とは条件あるいは環境が随分、違ってきている。小学校は小学校、中学校は中学校という枠を固定してきた6・3制というものを、もう少し弾力的に、お互いが9年間を一つのスパンとするならば、9年間の中で教員や子ども同士の交流があったら、より子どもの発達段階に応じた教育が可能になっていくのではないかというようなメリットを考えて、この「4・3・2区分の弾力化」を試行してみてはどうかという提言がされたものであり、これを真摯に受け止めていきたい。
- ② 全ての形を整えて格差のない実施の提言は理想である。それが理想であっても財政的にも、いろいろな問題があるから、まずはモデル的にやってみて、いい方法を探っていきたい、ということをご理解いただきたい。
- ③ 音楽、絵画などの情操教育はなおざりにするのではなく、もっと充実していかなければならないと考える。地域学習の充実ということで、文化や歴史、自然、ものづくり等にも十分配慮した中で、取り組んでいきたい。

### 教育委員長

先進地に行って感覚的に気付いたことを話したい。見た雰囲気の中で、これをやると子どもの方もかなり変わるだろうと思う。教師の方もかなり変わるだろうと聞き、子どもが遊んだり勉強したりする状況を見て、変わるんだなということを感じた。「小学校の先生がこんなに一生懸命、一人の子を隅から隅まで全部調べて、つつこんで理解して把握しているとは思わなかった」と中学校の先生が言っている。これを刺激に中学校の先生が教育をしている。こういった面でのメリットはかなりある。先生方の変化はかなりある。

主軸は生徒。生徒の変化では、小学校の異年齢集団の効果、あこがれや尊敬を持ってやっていた異年齢集団が一つの学び舎で、毎日目にして、これを刺激に目標を設定してやれることが大きいようだ。大きい子は小さい子、弱者とかに思いやりの心、やさしい心もかなりあるようだ。いたわりながらみんな仲良くやっていくような学び舎づくりを感じ取ってきた。

### 発言者C

- ① **制度として被せるのは権力者** 各学校とも、アシスタントや補助員を行政からたくさん入れていただき、学校も活気付いたり、子どもたちも保護者も喜んでいる話を見聞きしている。地域の人も図書館活動や交通指導等、積極的にボランティア活動をやり、地域行事や学校行事等にも積極的に参加している。学校が職員も地域も一体になって活動して成果が上がっているという話があった。そのように学校や地域が子どもの教育を考えて真剣に取り組んでいることをどのように評価するのか、どのような点を今後高めたり充実したらよいのかということをも十分検討しないまま制度を変えるということは、やはり地域から出た教育課題を解決するということにならない。

小中9か年間を見通した教育ということは、6か年間実際に教育に携わったが、確かによい点はある。大いに進めるべきだと思うが、それを制度として被せるということは権力者がやることではないか。地域の課題として是非こうしようという願いがあって始めて実現していくと思う。そのところを十分考えてほしい。

検討委員会が真摯な検討をしたというのが疑問を感ずる。中間検討で3者から意見が出たはずだが、その意見に対して無回答であった。三条の子どもたちのためによい教育を進めていただきたいと強く願っている。制度として被せることは時期尚早である。権力者が何か考えているのではないか。

- ② **モデル校は子どもが実験材料** モデル校の考え方は、モデルがうまくいかなければとりやめるという考え方だ。子どもたちは実験の対象ではない。子どもたちを実験材料のごとくモデル化しないでほしい。それがいいと思ったら万全の準備をして、行っていただきたい。教育部長が特別支援に大変理解が深いと聞いて、大変期待を寄せている。既に形あるものでない、検討していくということなので、三条市のみなさんはよかったなど言えるようにしてほしい。
- ③ **条南小の件** 一中学区の条南小は、三条小が台風で北校舎が傾いたその補助金でできた。当時の子どもは泣きながら校舎を移った。同じ地域を再び泣かせないでほしい。みんながよかったと後々の世まで言えるように、立場にある方々には考えていただきたい。

#### **教育部長**

- ① 三条市と教育委員会で取り組んでいるスクールアシスタント、特別支援教育の指導員の制度は、全国的に見て、県や国からの応援もあるが、他市に比べても遜色のない学校への人材の投入である。私は、着任2か月であるが学校を回ってみて、学校によって多少の差はあるが、地域の方に支えられている学校の姿を随所に見ることができた。学校は、単に建物があって教員さえいれば教育が成り立つものではなくなってきた。現在は、近年に増して教育課題が大きくクローズアップされ、何らかの手立てを国、県、市でも様々な段階で心配し検討している状況である。

それをどう評価するかという話だが、どういう観点で評価するかは難しい。地域に支えられている学校の姿や、学校と地域の方々の対話の中で、力を尽くしていただいている姿を何度も目の当たりにしている。そういったことについての評価はしにくいですが、大変ありがたいと思っている気持ちをご理解いただきたい。

私は、最終報告の取りまとめのときにはいなかったが、地域の方々、学校関係者を含めて現状の三条市の子どもたちの様子、学校の現状等を総合的に話し合い、三条市に必要なものは何かを検討していただいたと思う。

先進地を見てきたが、小中一貫教育は、進学のためにやる取組でなく、子どもの人間としての力、可能性、全ての子どもにとっての教育の自力、人間としての力をつけていくために有用なことであると実感した。先進地に共通することは、教育委員会も学校の先生も本当に子どものために取り組んでいる。システムの導入で魔法のように子どもたちがよくなるというつもりはない。今の三条市に必要なことは何かを検討した上での結論であると受け止めている。

- ② モデル校は、以前から国にも存在し、教育の発展に寄与してきた制度である。モデル校の実施に踏み切る教育関係者は、必ず成功させるという思いだけではなく、万全な準備をし、子どもたちのためになると確信を持った上で、モデル校を実施する。もし、実施となったならば、

小中一貫教育には様々な困難があり、教職員にも苦勞をかけるが、教育委員会としてもモデル校にまかせるのではなく、一緒に汗をかきながら、先進校に学びながら、三条の小中一貫教育のあるべき姿を、モデル校、地域とのかかわりにおいてどのような取組がよいのかは、責任を持って進めていく所存であり、子どもをぞんざいに考えてはいないことを理解いただきたい。

特別支援教育は、ライフワークであり、思いを込めてやってきた行政の一つだ。三条市は力を入れてやっていると思う。さらに、最終報告でも述べられた小1プロブレムの問題、幼少期からの連携の問題も、教育委員会が最終報告を受け止め、小中一貫教育とあわせて推進していくべき重要な課題である。また、先進校での特別支援教育は、小中の先生が一体になって小学校の時から中学校卒業までその子のために力を尽くしている姿を見てきた。その点も小中一貫教育に期待できる点だ。

### 教育長

① 制度を変えるのは権力者というご発言だが、6・3制を変えるのではなく、学習指導要領に基づいた小学校6年間中学校3年間の学習内容に準拠しながら、小学校と中学校の交流を考えたい。それを弾力的な扱いができないかというもので、教育制度を変えるものではない。

こういう問題は、地域の課題として取り上げるべきとのご意見だが、地域、教職員、保護者の意見は、これからも真摯に受け止めたい。今回の説明会を含めて、今後中学校区単位の協議会的なもの、学校単位で保護者や地域の方と学校の教育のあり方についてどうあればいいかという話し合いの場や組織も作っていただきたいと思う。その中で、地域、学校、保護者、行政が一体となって三条市の子どもたちにとってどうあればいいかということも考えていかなければならない。

② モデル校の子どもたちを実験対象とは考えていない。導入する前に万全の体制で連携型や併用型ならどのような形ができるのか、一体型ならどのようなスタイルが考えられるか、まず研究を深めたいと考える。研究の中身からできることを取り上げていきたい。

③ 今後のいろいろな話し合いの中で、学校の持つ条件や要件等が出てくると思われる。それを受け止めて、考えていきたい。

### 教育総務課長

① パブリックコメントについて、検討委員会は、昨年11月に中間報告書をまとめ、それに対する市民の意見を聴く趣旨で、パブリックコメントを実施した。3団体、個人から20項目の質問があり、質問内容及び回答は、パブリックコメントの実施要綱に基づき三条市のホームページで公表した。ホームページでの公表や、各庁舎の情報公開コーナーでの公開は、市政だより等でお知らせした。

### 発言者D

① **小中一貫教育は時間をかけた議論を** 子育てサークル等で、小中一貫教育のことが話題になる。この話の具体化が急で、平成24年から全中学校区で実施するということの不安は大きい。リーフレットの配布や市報などに載っていたが、なぜこの制度をやらなければならないか、24年度から全市で絶対やるのか、不安である。「十分論議を重ねて検証を踏まえて」と説明があったが、4年で十分な論議や検証を重ねることができるのか疑問である。モデル校の試行が22年度から始まるが、その前に教育課程を編成して実施が始まる。説明会に来られない人もたくさんいるし、皆さんに浸透するまで時間がかかるので、時間に余裕を持っていろいろな人の意

見を聴いたほうがよいのではないか。

### **教育総務課長**

検討委員会の最終報告について同様な意見を、いろいろな方から、学校からも寄せられた。最終報告に今後のスケジュールが示されているが、これからの進め方は地域説明会で意見を伺うだけでなく、具体化していく上で、学校単位の組織作り、その意見が上へ吸い上げられるようなシステムを考えながら、小中一貫教育の導入について深い議論を重ねていくことになると思う。

一貫教育という言葉が先行しているイメージを持っている。小中一貫教育導入の目的は、あくまでも中1ギャップ、不登校、いじめといった児童生徒の今の課題、教職員の連携の深まり等の目的を達成するための手段と考えていることをご理解いただきたい。

### **発言者 E**

**南幼稚園の存続・幼保小の連携について** 南小学校が幼小一貫のモデル校で、グラウンドに南幼稚園がある。三条高校の跡地に校舎が移ると、今後南幼稚園がどのようになるのか心配だ。現在園児が少ないので、閉鎖されるのかと危惧している。園児が少ない原因は、2年保育で年少を受け入れないからだと思われる。小中一貫で校舎が移転するなら、南幼稚園も建て替えをして、3年保育の実施を強く希望する。幼小の連携についての考えを聞きたい。

### **学校教育課長**

幼稚園のことについては、教育委員会でも数年前から議論を重ねてきている。今年度から子育て支援課と連携を図り、協議会を開催したり、研究組織を作って、一つの方向を定めていきたい。南幼稚園の3年保育の件は、施設が狭い問題もあるので、この場での回答はできない。幼保小の連携については、併せて特別支援を必要とする子も含めて、中学校区単位で地域の実態に合わせて課題を整理し、地域、学校との話し合いの中で、検討していきたい。

### **発言者 B**

2人のお母さんから質問があったように、不安や心配がたくさんある。ぜひ安心して子どもを預けられる教育を考えていただきたい。

**推進委員会の設置** 平成20年から推進委員会の設置とあるが、具体的な話を聞きたい。

### **教育部長**

最終報告書に記載の推進委員会は、あくまでも最終報告で提案された内容なので、教育委員会で小中一貫教育を本格的に推進することが決定したら、実際に推進する組織が必要になる。組織の立ち上げとなれば、教育制度等検討委員会とは違う委員会で、地域、学校関係者も含めて、より具体的にどのように三条市の一貫教育を進めるのか、具体的な地域の実情を踏まえた議論をしていただくことになろう。

一つの会議ですべてのことを決めるようなものだと、地域固有の議論を落としてしまいかねないので、組織を作ったら、学校区や学校単位で、より市民に近い方々と教職員の意見を集約するような形の組織を構築していく必要があると思う。

「学校区ではどのような姿になるか分かりづらい、今までのやり方から大きく逸脱しないでほしい、小中一貫教育は不安」との話があったが、そういう意見を受け止め、不安を解消しながら進めることが構造上しっかりできる推進委員会でなければいけない。「子どもたちのためにどうするか」という視点を軸に据えながら推進していく組織になると考える。